



K J V A

高知県小学生バレーボール連盟

**広報委員会通信**

No, 13

令和5年3月3日

## 愛媛県小学生バレーボール連盟 主催 コンプライアンス研修会にて



コンプライアンスを直訳すると「法令遵守（順守）」簡単に言うと「会社の規則 法令 社会で守られているルールを守ること」です。様々な種類がありますが、一般に使われている意味としては、企業や組織コンプライアンスの意味で使われる事が多いでしょう。

2月5日（日）に、愛媛県伊予市にて行われた愛媛県小連コンプライアンス研修会に、日本小学生バレーボール連盟のコンプライアンス委員会からの派遣として、2時間のお話をしてきました。

初めての地で約80名近くのジュニアバレーボールの指導者を前にして、大変緊張しましたが、「私には経験がある」「私には伝えたいことがある」「小学生バレーボールを愛する強い気持ちがある」という3つを抛り所に、パワーポイント資料や佐喜浜小校長室だより、そして日小連HPにもUPされている、「～選手を守る・保護者指導者も守るから共育ブック～」を使用して、研修会を無事終える事ができました。



私が伝えたポイントは、以下の通りです。県小連の皆さんにも、今のジュニアスポーツ環境の情報として有用であると思われるので、一部抜粋してご紹介させていただきます。

- 1 スポーツ活動も企業活動同様コンプライアンスが根幹である。  
ボランティアなのにと甘えはタブー。R4コンプライアンス規定違反50件。
- 2 リーダーになる方は、クレーム対応力を持ち合わせておくことが必須である。
- 3 根性・熱血の昭和  
選手主体・チームワークの平成  
科学的に証明されたトレーニング・脳科学と連動したメンタルトレーニングの令和
- 4 すべての経験は、今これからの成長への糧である。  
過去の栄光も挫折もすべてがこれからの成功への布石となりえる。  
今からが大事。  
フロイト心理学よりもアドラー心理学を！ポジティブトークで集い合う仲間
- 5 選手主体が理想、それには卓越した指導力が必要。目指そう名監督。  
勝利に向かうプロセスが大事（優勝よりも価値のある準優勝がある）
- 6 愛媛には愛がある。あなたのために・自分のために この両方とも大事！  
愛は力、しかし過度の愛は自分を見失わせる。俯瞰力を！真のサポーターを持とう！



### アンケートより

- ・このような研修会を初めて受けました。新しい情報がたくさんあり、今までの指導を振り返るよいきっかけとなりました。練習に取り入れていきたいです。
- ・何のためにジュニアバレーボールの指導をしているのかを考えました。楽しい時間を与えてくれている子どもたちに感謝しながら、指導を続けていきたいです。

## 令和5年2月5日（日） 高知県小学生バレーボール連盟 倫理研修会にて

### ○言葉の力の大きさを知る！

幼少期の言語環境が、その後の児童の言語環境を大きく左右する。

幼少期に受けた厳しい叱責は、脳にダメージが残るという研究報告多数

### ○指導者は教育者

「保護者は、競技や指導者の競技指導力以上に、練習環境及び指導者やチームの教育力を重視して子どものスポーツを選択する傾向にある。」

### ○楽しいバレーボールに

※大会でのどなり声や指導者の横柄な態度等は、保護者の競技への嫌悪感を増幅させる。

※子どもの学校での学習環境を知る(多忙・集中力要求)。

放課後は心身のリラックス・リフレッシュが欠かせない状況にある。

※保護者の労働環境も同じ

※厳しいチーム作りより楽しいチーム作りが難しい。

※楽しい大会作りが大事。

※大会の質向上に向けた努力が不可欠。

それぞれのチームの特徴を生かし、それぞれの環境にあったスタイルで、バレーボール技術指導力と選手の間力向上を目指しましょう！

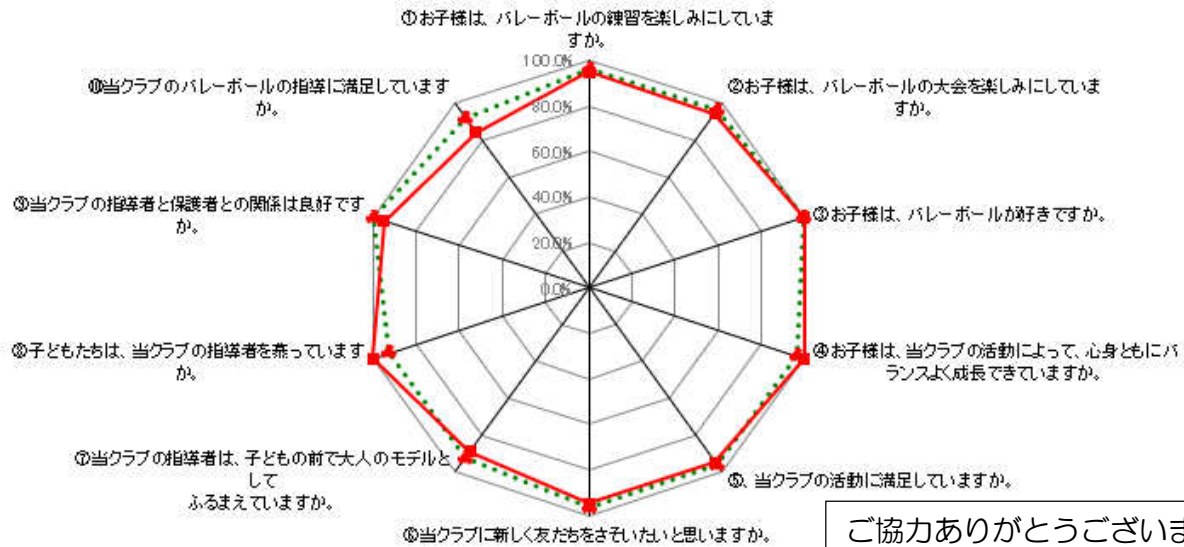
### アンケートから

- 全国のコンプライアンス違反の現状が見えて、勉強になりました。
- 平日に練習の仕方について、再考しようと思いました。
- プロセス重視で、目標を持ち、楽しく活動し、向上していくチームづくりを目指したい。
- 普段普通に発している言葉や言動が、今の時代には合わないということがわかった。
- 練習を離れた時に愛情があれば、言葉の暴力は子どもたちは感じない。 など

# R4年度 県小連 アンケート結果 報告

加盟31チームの方々からご協力をいただき、各チーム選手（保護者）の声を、数値化して以下にまとめました。今回も総じて好意的な声が多かったようです。各チームの活動が、保護者や選手の声に耳を傾けながら進められていることを感じました。しかし前年度より少しですが、肯定的評価が下がっているのが気になります。また各大会で好成績をおさめておるチームの満足度があまり高くない傾向が、今回も見られています。勝敗にこだわりすぎないよう、気を付け合いましょう。各チームに寄せられた自由記述欄の中にも、貴重な声が多々あります。これらの声を参考にして、今後とも、チームの方針と選手・保護者のお考えを合わせ、お互いがWIN・WINの関係を築けるような充実した活動を行きたいです。

●●● R3年度(1月)    ■ R4年度(1月)



ご協力ありがとうございました。